

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372101390		
法人名	社会福祉法人瑞穂会		
事業所名	グループホームかみさの家	ユニット名	「ほかほか」
所在地	愛知県岡崎市上佐々木町字大官43		
自己評価作成日	平成23年11月8日	評価結果市町村受理日	平成24年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html">http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町2丁目6-5		
訪問調査日	平成23年11月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

理念である「ゆつくり楽しく普通に生活を」念頭に、利用者・職員が笑顔で一緒に暮らせる家でありたいと思っている。  
 利用者本人の想いをうけとめることを重点におき、つぶやきを記録し情報共有し、日々のケアにつなげている。畑・庭への行き来が自由に出来る環境があり、又、古きものをこわして手芸品作りをしたり、居心地良く暮らせるように環境設定も一緒に作業しながら整備したりと、日常的に生活歴が活かされる場面を作っている。今年度は、大震災を機に防災について見直し、年間計画に添って、訓練を毎月繰り返して行い、職員・利用者の意識と対応行動の向上に力を入れている。又、症例を通して不適切ケアや認知症の勉強会につなげており、職員の意識向上につなげている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

特別養護老人ホーム、デイサービスに併設し、広々と田が見渡せる環境にある。庭に柵や塀はなく洗濯物干し、鶏小屋、畑、東屋、トイレがあり自由に出入りし、日常の生活を思い思いに過ごしており、職員は常に緊張感を持って見守りに努めている。年2回「家族介護の日」を設け、一人ひとりの状況に合わせて外出やバーベキューなど家族と共に過ごす支援をしている。今年度は想定外の災害訓練やマニュアルを見直し、勉強会などホーム内での防災対策や訓練に力を入れている。防災は地域の関わりも大切で、常に地域との連携が取れる体制を考えた、防災対策の取り組みも期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議等において理念を確認し合い、職員の共通理解を図っている。	理念は利用者の書いた書で玄関と各ユニットの居間に掲示してある。年度初めの事業計画書に理念・行動指針が示され、職員間で共有されている。機会あるごとに理念を意識した話合いがされ支援の統一が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のふれあいサロンや学区の作品展出品に参加したり、施設開催の抹茶会に地域の方を招待している。	学区の開催する行事に利用者の作品を出展し、参加者の関心を得ている。利用書の買い物時に、協力・支援の依頼チラシを作り、スーパー側と話合い、買い物時の理解を得るなど、地域と積極的に取り組み交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人発行のふれあい新聞を発行。グループホームの活動を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のスーパーへ買い物に行くことで、地域に住む認知症の方々も気軽に買い物が出来るような取り組みを実施している。また、運営推進会議にて助言いただいている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開かれ、家族・地域総代・民生委員・福祉委員・協力医・市の介護相談員が出席し利用者も同席することがある。家族から提案があった買い物支援は具体的に運営会議で助言をもらい、店側と話し合いの上地域ぐるみで実施され、利用者・家族や地域の人にも喜ばれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは主に施設長が連絡をとっている。市の介護相談員の訪問「時には情報の交換をしている。	市の介護相談員は2~3ヶ月に1回訪問がある。日頃の状況報告やケアサービスについて相談をし、サービス向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの年間の取り組みとして、静止の言葉も身体拘束と捉え、本人に寄り添うケアの実践を意識して取り組んでいる。	戸締りは夜間のみで、利用者は自由に暮らしている。拘束について症例検討を年間の取り組みとして、職員のアンケートのデータも併せ検討を加えた上、スピーチロックを含めた拘束しないケアの取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議にて勉強会を行い、全員が理解し、意識できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる利用者があり、ユニット会議にて制度について勉強をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の項目を一つずつ確認しながら説明している。内容変更の場合は家族会で検討・了解を得て、同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や、家族会にて意見交換の場を設けている。運営推進委員会にも順番に参加していただくとともに、常に何でも言い合える関係作りを意識している。	日常、利用者や家族の意見を聞く様に努め記録し又、家族会では家族間だけで話し合う時間を設け、苦情や要望など話合いの結果を文書でもらい、その苦情内容や改善点をまとめ、家族会に報告し、ホームで掲示、運営推進会議にも報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は、個人面談を随時行っている。正職会議やユニット会議にて意見を出し合っている。	年1回は施設長との面談があり、ホームの管理者も同席し、職員の意見や提案は会議で話し合わせ、日常的にも常に話し合いがされ、支援に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は年1回の職員面談を実施し、健康状態・スキルアップにつながる目標設定を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や、正職・嘱託・パート職員に区別なく、ユニット会議や勉強会に参加している。外部研修には可能な限り、内容に合わせて人選をし参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連協・中三河ブロック・市小部会へ出席、研修へ参加し、情報を交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接は住み慣れた場所で行い、十分時間をかけて生活状況を把握しながら、本人の思いを引き出せるよう向き合っている。また入所前に通所していただき、安心感が得られるように務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや見学時に話を聞き、いつでも相談に応じる旨を伝え、状況に合わせて対応している。事前面接時には経過や現状をゆくり聞き、信頼していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・ケアマネの相談に応じ、包括につなげるなど、主に施設長が行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来ることに合わせて生活の中で役割を持っていただき見守っている。また、得意なことを活かした日中活動を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族介護の日を設けたり、お墓参りや、本人の希望時に電話をするなど、家族にも協力していただいている。面会はいつでも受け入れ、気兼ねなく訪問できる雰囲気作り心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があった時には電話やFAX、手紙の支援をしている。	墓参りなどは家族とともに外出をすることが多いが、馴染みの店や寺に職員が同行し、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の役割活動を通して、利用者同士の関係が円滑になるよう支援している。利用者間の悩みが何えるときは個別に話を聞き、職員が仲介役となれるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があった場合は、施設長・管理者を中心に受けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションでの本人のつぶやきを大切に、記録していくことで職員全員が把握している。言葉で伝えられない方は表情や行動から予測されることを話し合っている。	利用者の気になる言葉はそのままメモに取り、介護記録に添付しておき、職員全員が収集した情報と合わせ24時間生活支援記録に記入し、共有できるよう工夫を行い、本人の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接において生活歴を把握しているが、日々の生活の中での本人の回想や、面会時に家族から聞いたことを職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的・状態変化時に出来ることチェックを行い、全体像の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中の変化は必ず記録に取り、家族と共有し、本人・家族の意見も聞いた上でカンファレンスを行っている。	本人や家族とのコミュニケーションを大切に考え、定期以外に問題提起があったときなどに、随時ケースカンファレンスを開き、意見交換をしている。理念である「普通の生活」を基に、本人に目を向け寄り添う介護計画作成に努力がみられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に状態や対応内容を記載し、情報の共有とケアの統一を図っており、勤務前の確認を義務付けている。月間評価・カンファレンスから見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症進行に伴い家族との密な調整を実施。姉妹の来訪を自由に行い、面で受け入れる体制が出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	頻繁に外へ出ていかれる方に対して、石工団地の方々にご協力頂き、見守って頂きながら、挨拶を交わしたり犬と触れ合うことが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近医との関係を密にしており、老人健診・定期受診・体調不良時は常勤看護師と受診しておる。随時で家族同伴受診し、医師から説明していただき、相談したり日常生活のアドバイスを受けている。	地域医が主治医であり、定期的な健康管理が行われている。入居以前からのかかりつけ医受診は看護師や家族が同行し、適切な医療を受けられるように支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が健康管理・薬の管理を行っている。朝の申し送りや状態変化時に相談し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院スタッフ・家族と情報交換しながら、対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	既往歴からのリスクを把握し、家族から状態変化に伴う同意書をいただき、方針を共有できるようにしている。	重度化や終末期に関しては、介護度4又は5になると利用者の状況や危険性、医療を持ち込めないホームでの現状を説明し家族の理解を得ている。法人内に特別養護老人ホームがあり、支援を繋げる体制がある。	重度化や終末期となるまで、共に生活し信頼関係を築いているため「このままホームで」と望まれる声もある。十分な話し合いを重ね、出来る限り本人・家族に最適な支援の取り組みを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の状態変化に伴い、予測される症状・事故への対応を会議において実際に行い、実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害時の通報・避難誘導訓練を毎月実施し、職員・利用者共に意識と対応行動の向上を図っている。災害発生時には、地域住民の方へ応援要請ができる体制もある。	今年度は災害対策の強化を図り、毎月の訓練や夜間想定、抜き打ち訓練などを実施し、毎回の評価を次に繋げている。利用者の裁縫の特技を活かし、防災頭巾を作り全員に備えている。備蓄品や持ち出し品は現在検討中である。	災害時は地域住民との相互の協力が不可欠と考え、いざと言うときにはホームがこの地域の社会資源となる災害対策の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を傷つけないよう、さりげない声かけに配慮している。記録にはイニシャルで表記している。地域への情報系祭事は家族の了解の下に行っている。	利用者、一人ひとりに敬意を払いその人らしい姿を大切にしている。利用者の一人ひとりに寄りそいながら、さりげない声掛けや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食後やコーヒータイム時に希望を引き出せるようにコミュニケーションをとり、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、自分らしく生活が送れるように、日課は環境を整備し見守り対応をしている。希望が引き出せるよう話題を出し、計画を一緒に立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師が訪問し、カットやカラーの希望に対応している。おしゃれを楽しめるように化粧品やピン止めなど、希望時は買い物へ付き添っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望を取り入れたり、買い物から準備・片付けまで個々の出来る力に合わせて一緒に行っている。	一人ひとりのペースに合わせて食事の支度や片付けをし、一日の活動の一つになっている。職員も一緒に食事をし、利用者からの話題も多く微笑ましい雰囲気が伝わってくる。畑で取れた野菜も食材であり、利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の中で定期的な水分確保を日課に自然に取り入れている。食事は配膳方法や食器の大きさに配慮したり、少ない方には捕食を用意するなど個々で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日最低1回は個々にあったケアで介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン・失禁状況を把握し、トイレ誘導やオムツを使用している。また、交換が自己にて行えるようにセッティングしている。	個別の「24時間生活支援シート」を利用して排泄パターンを把握している。タイミングを見計らってトイレ誘導し、一人ひとりに排泄支援を行う努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操や水分補給時にアロエ液を使用したり、野菜を多く取れるように献立に配慮している。疾患的な要因がある方は定期的に下剤を服用していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に出来るだけ合わせて対応している。	入浴は午後から就寝前までの時間帯に本人の希望に沿うように努めている。機械浴がないため要介護5の利用者にはシャワー浴で対応している。	脱衣所は床暖房であるが浴室には暖房機が設置されていない。浴室内に安全な敷物を敷くなどの工夫をし、心地よい入浴時間であることを望む、
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠状況や体調にあわせ、昼間の休息を確保している。日中活動を充実させたり、温度・湿度を調整し安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬管理袋に処方箋が入っており、いつでも確認が出来るようになっている。変更があった場合は申し送っている。内服は必ず手渡しし、服薬を見届けてからチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割分担した家事を任せたり、本人も自分の仕事として自信と責任を持って行っている。また、晩酌や花の手入れ、畑仕事など、好きな事が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日や、希望があった時には随時外周や神社、保育園へ散歩へ出かけている。外出先にはなじみの店員さんが理解をしてくださり、気さくに声をかけてもらえ、良い交流が出来ている。	散歩や買い物など積極的に戸外に出る機会を作っている。近所の犬に会いに行く利用者は飼い主の理解もあり毎日出かけている。年間計画で特養の車を利用し、一泊旅行や花見、初詣なども行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に合わせており、自己管理が出来る方には買い物や訪問パン屋で支払いを任せている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	思い立ったときに自分で電話をされる方や、希望を受けてFAXのお手伝いをするなど、随時対応している。また、年賀状は欠かさず出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員で作った作品や、回想につながる物を飾ったり、季節に合った雰囲気作りをしている。	共用空間は広く明るい。広すぎて落ち着かない利用者のために家具の配置を換え、居心地よく過ごせる工夫をしている。窓からは畑や庭が見え季節を感じる事が出来る。利用者が着物から作り変えた手芸作品が飾られ、温かい雰囲気が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア・玄関・台所・テラス・玄関先等、各場所で座れる空間を作り、場面に合った対応ができるようにしている。気の合った方同士で話をしたり、自分の時間を楽しむ空間として利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇、植物などを置き、使いやすい空間を設定している。庭には鉢植えや花壇で花を楽しむ方もいる。	慣れ親しんだ家具や仏壇、趣味の道具やミシン、写真など居室一つひとつに個性が見られる。利用者が居心地よく生活出来るよう環境に配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に洗濯干しが出来る設定や、下駄箱の環境設定など、自立支援と安全確保に努めている。		